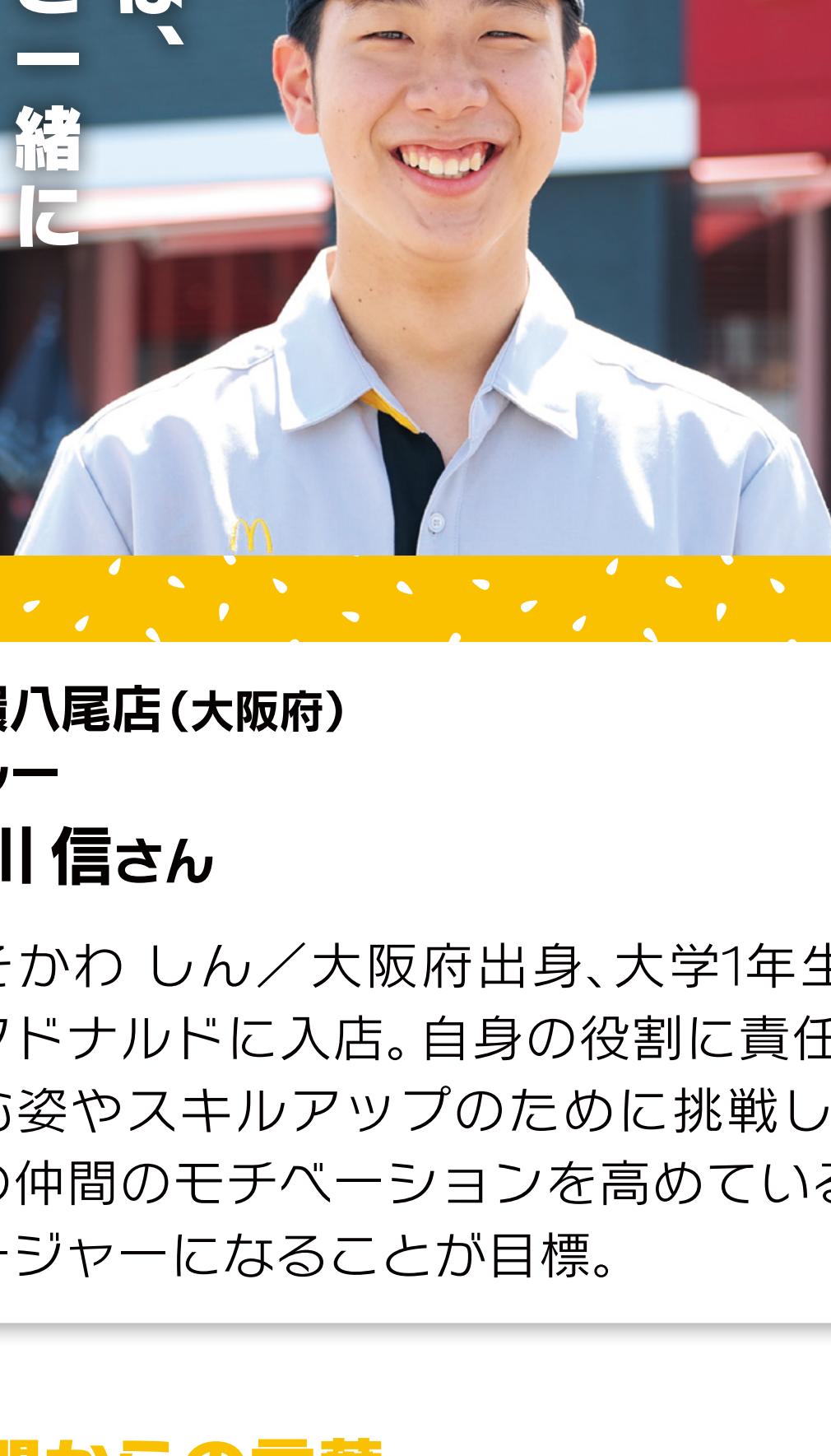




間と一
緒に



友人からアリバ

及川さん

から続けた英
の仕事をでき
た。切符、封筒

その後も、仲間はいつも「すぐ覚えられてすごい」「仕事が丁寧だね」と褒めてくれたが、自分に合格点をあげることはできなかった。「自分で考えて行動できないことに、不甲斐なさを感じていました」。慣れない仕事や思い描いたとおりにならない悔しさから、帰り道はいつもクタクタだった。

ぐ周囲と自然は云詰
る瞬間が増えた。ま
自分の成長を肯定す

A woman in a white shirt and cap is smiling while working in a kitchen. A bright yellow light illuminates the scene, creating a warm glow. The text "看るを伝える大切さ" is overlaid at the bottom.

にも慣れてきた頃、店長から声がかかつた。これまでお客様と直接関わる経験はほとんどなく、自分に接客ができるのか、どうすれば喜んでいただけるのかは分からぬ。けれど、新たな挑戦の機会や、店舗の仲間が自分を信頼してくれたうれしさから、細川さんの胸は高鳴った。

最初は、先輩たちの仕事ぶりを見て勉強。その中で「元気な挨拶」と「笑顔」だけはどんなに緊張していても徹底しようと心に決めた。上手く言葉が出てこなかつたり、注文が聞き取れず何度も聞き返してしまうこともあった。それでもめげずに一生懸命取り組むと、お客様から「ありがとう」をいただける回数が増えていった。

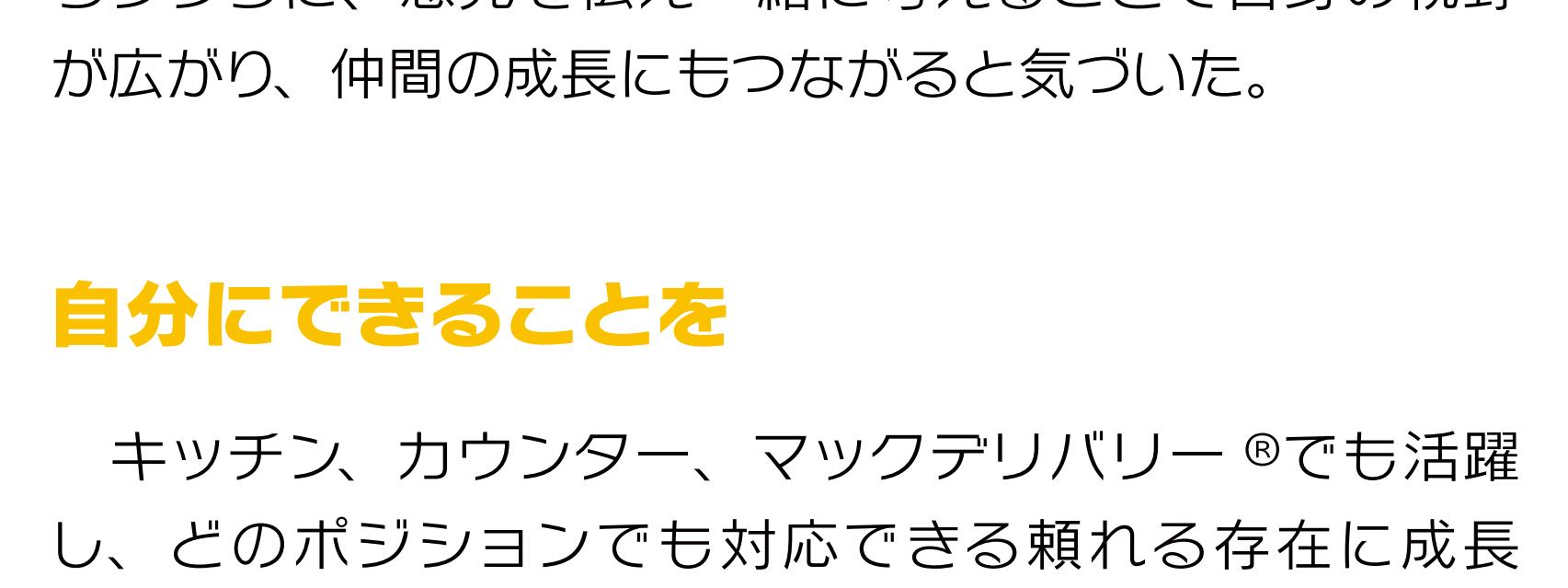
仕事に慣れてくると、店舗をより良くするための改善点が目に留まるようになった。例えば、声かけて連携がスムーズになれば商品の提供時間はもっと短くなる。手が空いているクルーに仕事をお願いできれば一人ひとりの負担を減らすことができる。いつも支えてくれる仲

うを徹底した。

らううちに、意見を伝え一緒に考えることで自身の視野が広がり、仲間の成長にもつながると気づいた。

自分にできることを

キッチン、カウンター、マックデリバリー[®]でも活躍し、どのポジションでも対応できる頼れる存在に成長した細川さん。より円滑な店舗運営のためいつも積極的に行動するとともに、新しく入店したクルーへのトレーニングをはじめ仲間の成長に携わりながら、将来



した細川さん。より円滑的に行動するとともに、

的にはマネージャーを目指している。「仲間がもっとのびのび働くように、自分なりに考え続けたいです」。ともに働く仲間のために、そしてお客様のために、細川さんの挑戦は続していく。